

手賀沼通信(第297号)

Eメール: nittay@jcom.home.ne.jp
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai

http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/
http://tegatu2.web.fc2.com

新田良昭

今年最後の「コロナ特集その8」です。

昨年12月号の「その6」ではコロナが収まったような報告をしました。今年5月の「その7」では昨年12月にオミクロン株が発生し第6波となって拡大、今年3月下旬に下火になってまん延防止措置が全面解除になったブログまでまとめました。

ところがその後また新しいオミクロン株により第7波が発生したのです。そしてその波はまだ続いているようです。「その8」は今年の11月下旬までのブログしか載せられないので、年末にどうなっているかは不明ですが、とりあえず今年のコロナ特集の締めといたします。

手賀沼通信ブログ抜粋ーコロナ特集その8

コロナが第7波に突入(No. 1614)(令和4年7月9日)

コロナが第7波とみられる感染拡大を広げ始めました。

7月8日の日本国内の感染者は5万人を超え50,107人となりました。5月14日に約5万5千人を記録して以来です。感染者は全都道府県で増加しています。オミクロン株の新系統「BA・5」が広がったためと言われています。

ワクチンの2回目接種は全世代で8割を超えていますが、3回目の接種は40歳代以下は31%~59%で、全世代平均は62%にとどまっています。感染は40歳代以下が目立っています。幸い死者数は第6波の時より少ないですが、増えてくる可能性があります。

私は7月5日にワクチン第4回目を打ちましたが、60歳以上の4回目はまだ23%ですので、この実施を早めるとともに、3回目の接種率を上げていくことが必要と思われます。

また旅行割引キャンペーンの(県民割)の全国版「全国旅行支援」は開始時期をすくなくとも第

7波が収まるまで延ばす必要があると思います。「GO TO トラベル」の苦い経験を忘れてはならないでしょう。

コロナとの付き合いは忍耐が必要だと思います。中国のようなゼロコロナは論外ですが、個人個人が対処の仕方を考えることではないでしょうか。

コロナの日本国内の感染者の累計が1千万人を超えた(No. 1616)(令和4年7月15日)

2022年7月14日、コロナの日本国内の感染者の累計が1千万人を超えました。

読売新聞に毎日発表されているアメリカのジョージ・ホプキンス大による統計によると、1千万人を超えている国はアメリカの約8900万人を先頭に34か国中13か国です。日本は14日の感染者が9万7788人となって13か国目になりました。

14日の感染者数は、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリアに次いで5番目に多い数字となっています。アメリカに次いで3大感染国だったインドとブラジルは日本以下に抑えています。

最近の増加傾向を見ると、15日には1日の感染者が10万人を超えることは間違いありません。10万人を超えれば2月8日以来となります。

政府は経済活動の制限や各所の人数制限は設けないとしています。はっきりした理由はわかりませんが、第6波までの経験から、制限を設けててもあまり効果はないと判断したのかもしれませんが。経済活動を抑え込む影響の方が感染拡大より大きすぎると考えたのかもしれません。

コロナは次々と変化しています。そのたびに感染が拡大します。いまのところ死亡者はそれほど増えていません。ワクチンを何度も打って重症化や死亡者を少なくすればいいと考えているのかもしれませんが。ただ、全国的な旅行の割引の実施は先延ばしのようです。

コロナの日本国内の1日あたりの感染者数が最多記録を更新、世界最多の記録を19日間続ける（NO. 1624）（令和4年8月11日）

2022年8月10日、コロナの1日あたりの感染者数が25万403人となり、25万人を超えて7日ぶりに過去最多記録を更新しました。

8月3日に24万9830人を記録してから少しずつ減少していたのですが、減少傾向は続きませんでした。これがピークなのか、さらに更新するのかわかりません。

世界的にみると7月22日にアメリカの1日あたりの感染者を本格的に追い越してから、8月10日までの20日間、1日だけわずかにアメリカが多かったのですが、それ以外は日本がダントツの多さを記録しています。いまや日本が世界1の感染国になっています。これもいつまで続くのでしょうか。

お盆休みを迎えて日本から観光のための出国者が増えています。コロナ前に迫る勢いです。いままでは海外からの入国者がコロナを広めるのではないかと心配でしたが、世界1となった日本からの出国者がコロナをばらまいてくるのではないかと余計な心配をしています。

感染者の増加につれて死亡者が増えているのも心配です。8月2日に143人と3桁になって以後、3桁の死亡者が続いており、9日には278人、10日には251人と増加しました。

病院に入るべき患者が自宅療養を続けざるを得なくなっています。このまま何もしなくていいのでしょうか。

日本国内のコロナの死者が4万人を超える。全数把握の見直しが今日から4県で始まる（NO. 1631）（令和4年9月2日）

令和4年9月1日、306人の死亡が確認され、コロナの累計の死者数が4万248人となりました。

第7波では感染者が急増したため、死者数も過去最多となっています。4か月足らずで1万人増えました。80歳以上が死者数の74%を占めており、持病を悪化させて死亡する例が目立ってい

ます。私も心臓に持病があるため要注意です。

今日から感染者の「全数把握」の方法が見直され政府の方針に従って、宮城、茨城、鳥取、佐賀の4県で県独自の方法で新たな仕組みを実施することになりました。

いままではすべてのコロナ感染者の住所氏名などを確認して報告する「全数把握」の方式を取っていましたが、医療機関や保健所の事務的な負担が多いとの声が相次いだため見直しをすることが決まりました。ところが見直しする方式について、国が一律の方式を決めることをせず、各都道府県に独自に決めるよう丸投げしたため、ほとんどの知事が反発し政府に新しい仕組みを考えるよう要求しています。それまでは今のやり方で行くことになりました。

4県はあえて独自の方式を取ることにしましたが、その勇気は称賛に値します。

政府と厚労省役人の無策が浮き彫りにされました。7月22日以後、1日を除いて8月末まで1日当たりの感染者の世界最多記録を更新し続けました。9月1日になってやっとアメリカを下回りましたが、まだまだ全国の感染者は高水準にとどまっています。

早く政府が新しいシステムを導入すべきと考えます。

コロナの日本国内の感染者が2000万人を超えた（NO. 1633）（令和4年9月10日）

コロナの日本国内の1日あたりの感染者は8月19日の23万1343人をピークに減少傾向にありますが、9月9日の9万9491人でついに2000万人を超え2000万8557人となりました。

1000万人に達するまでは2年半かかりましたが、2か月足らずでさらに1000万増えました。日本の人口の15.7%、6.4人に1人が感染したことになります。

日本は7月22日にアメリカを追い越してから、世界1の感染者数を出し続け、3日前からほぼアメリカ並みの感染者数まで減りました。今では世界で9番目の感染大国になっています。

ただ昨日9月9日の感染者数が、感染者の少ない月曜日を除いて7月19日以来の10万人を割り

ました。この減少傾向がさらに加速することを祈っています。

全都道府県でコロナの全数把握の方法が変わった（NO. 1638）（令和4年9月26日）

令和4年9月26日からコロナの全数把握の方法が変わりました。

いままではコロナにかかった患者の氏名と連絡先などを診断した医師が保健所に届ける必要がありました。この作業が医師の診療以外の負担を増やしていました。

今後は、①65歳以上、②入院が必要か必要になる可能性がある、③重症化リスクがありコロナの治療薬か酸素の投与が必要、④妊婦、の4通りの場合だけ従来通りとして、それ以外は年齢層別の患者数だけ保健所に届けるとしたのです。

実は見直しは今月2日以降に行われていたのですが、やり方を政府が各都道府県に丸投げしていたため9県だけが実施し、あとの都道府県は統一したやり方を政府が決めるべきとして実施を控えていました。

それが今日から統一した方法で実施されることになりました。それに伴って都道府県の多くが市町村別の新規感染者数の発表をやめることになりそうです。

コロナの日本国内の新規感染者数は9月14日に10万人以上を記録しましたが、その後は10万人以下となり、ここ2日は連続して5万人を切っています。第7波も緩やかですが収まりつつあるようです。このまま減ってほしいものです。外国人の入出国の規制もコロナ前の状態に戻りつつあります。

海外でのコロナ統計も変わりつつあります。新規感染者数の発表はイギリスでは3月から、ブラジルでは5月から、フランスでは6月から発表する日を限っています。スペインは最初から発表する日を定期的に休んでおり、ロシアや台湾は不定期に休んでいます。

真面目に毎日発表する国のほうが多いのですが、国によってコロナ統計をどうとらえているかはわかりません。

コロナ対策の入国制限が大幅に緩和される（NO. 1642）（令和4年10月10日）

2022年10月11日からコロナ対策のために実施してきた入国制限が大幅に緩和されます。外国人観光客の受け入れを容易にし経済再生を図るためです。

緩和の概要は

- ① 1日5万人の入国者数の制限の撤廃
- ② 個人旅行客の入国を解禁
- ③ 68か国・地域からの短期滞在者はビザ免除を再開
- ④ 入国時に発熱などの症状がない場合のウィルス検査の撤廃、入国後の待機も不要です。

ただ今後も入国にはワクチン3回接種証明か、出国時72時間以内の陰性証明は必要です。

なお11日からは国内の旅行支援やイベント割も始まります。これもワクチン3回接種か陰性証明は必要です。

入国時の制限の緩和は世界的な傾向で日本もそれに乗った感じです。

ただいくつかの不安材料がありすぐ外国からの観光客が増えるとは思われません。例えば、最大のお得意様だった中国はゼロコロナ政策を取っています。国民の不要不急の出国を制限していて、旅行目的の海外渡航はできません。コロナを完全に抑え込んでいた台湾は感染者が急増しています。タイはタイ国際航空が経営破綻したため日本便が少なくなっています。ヨーロッパは航空機がロシア上空を飛べないため日本までが遠くなっています。

そんなマイナス要因がありますが、これを機会に、円安で日本への旅行が魅力的になっていることを何とか生かしたいものです。

日本の観光施設は受け入れ万端です。

コロナ第7波が収束する前に再び感染が拡大した（NO. 1651）（令和4年11月3日）

2022年11月2日コロナの日本国内の1日の感染者が7万258人となり、7万人を超え11日連続で前週の同じ曜日を上回りました。

7月初めに第7波に突入したコロナは8月19日に日本国内感染者26万1343人にまで急拡大しました。その後少しずつ減り始め、10月1

